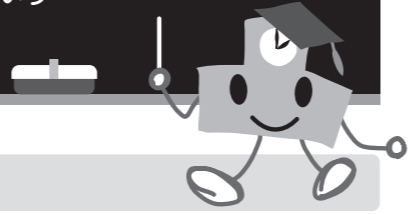


中学校の事例 南区 定山溪中学校

全校で植樹に参加。一人一人に芽生えた環境意識。

地域の豊かな自然を生かし、他校や地域との協働もはかった森林環境教育で環境保全を学ぶ。豊かな自然を守り、育てていかなければならないという自覚と意識が高まっている。



内容 地域と協力した森づくり

本校では、北海道森林管理局からの呼びかけを受け、石狩地域森林環境保全ふれあいセンター主催の「地域の森から学ぶ森林づくり」に全校生徒で参加している。これは奥定山溪の国有林に行き、種を採って学校へもち帰り、その種を苗木まで育て、土場跡地など、木がなくなったところへ植えることで、森林を作っていく取組である。ただ木を植えるのではなく、森林の機能や、そこに生息する鳥や昆虫の観察も行う等自然環境について幅広く学んでいる。豊かな自然が近隣にあり、生徒数も少数だからこそ全員で取組める、本校ならではの取組だ。平成22年度からの取組なので、今後数年かけて、森林が再生していく過程を観察していこうと考えている。

今年度は3回の森林教室が行われ、第1回は7月に「もりづくり予定地と周辺調査」と題し実施。1年生が総合的な学習の時間と理科の学習と、豊平川源流へ行き、森林の機能や生物について学習した。



植物の観察

第2回は9月に行った。まず3年生が、地域の森の植樹と種ひろいのため、豊平川源流地域に入り森林を構成する樹種とその特徴について学び、根ざし法による植樹と育種のための採種を実施した。その後、全校生徒と地域の方も参加し、「航空写真による森林調査」のため、ラジコンヘリで航空写真を撮り、真上から森林のようすを観察した。



種ひろいのおと選別しているようす



「森林の機能」の授業風景①

この森林教室には本校のほか、定山溪小学校や、地域の連合町内会、みずもり会議、山野草の会、観光協会、温泉旅館組合の方々も参加している。地域の方々と一緒になって環境保全の取組に参加することで、森づくりをおして地域との協働も図られている。

第3回目は10月に「郷土の樹の種を植えよう」と題し行った。前回3年生がもち帰った種を全校生徒でまき、苗を育てる準備をした。種子の大きいものはポットに1粒ずつ、小さいものはトレイにまき、屋外に保管した。

また、1年生は総合的な学習の時間を利用し、「図書館モデル公開授業」事業にも参加。中央図書館へ行き、グループごとに「定山溪の森」、「生物多様性について」、「森林のはたらき」とテーマをに沿って、調べたことを発表した。

効果 一人一人に芽生えた自覚と意識

このように、実際に地域の森林へ行き、観察や採種を行うことをとおして、改めて定山溪は温泉や観光だけの街ではなく、自然が豊かな地域だと認識することができた。一人一人が自覚を持ち、この豊かな自然を守り、育てていかなければいけないという意識が根付いてきた。



植樹の準備

今後 さらに発展に努める

森林教室を実施するには、授業の中で行うため時間数の確保が難しいことや、時期や時間の調整が大変なことなどが課題として残っている。

また、森林の中に入るためクマなどの出没の恐れもあり、安全確保のためにも森林全体を把握している専門家の知識が必要である。学校としては、これらの課題の解決策を考えることも重要である。

しかし、子供たちの視野を広げるにはとてもよい取組であるため、これからもこの森林教室を本校の特色ある取組として工夫・発展させながら、専門家の指導や地域のサポートを受け継続していきたいと考えている。



「森林の機能」の授業風景②

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校からメッセージ

実施初年度であるため、現在の活動を維持・継続していくことが大切と捉えています。また、学年ごとにリサイクルなどの取組も発展させていきたいと考えています。